

書評

[評者]

大曲貴夫

国立国際医療研究センター
国際疾病センター/感染症内
科



トラベル・アンド・トロピカル・メディスン・マニュアル

岩田健太郎・土井朝子 監訳

A5 変型判 頁800 図・写真45 4色 2012年
[ISBN978-4-89592-693-5] (MEDSi 刊)
定価8,400円(本体8,000円+税5%)

海外に向かう人々は年々増えている。海外への旅行は楽しみなのである。初めての土地での新たな体験を想像するだけで心が躍ってくる。しかし、不安もなくはない。それはいわゆる時差ぼけに始まり、高所であれば高山病であり、熱帯に行くとなれば熱帯病も気になる。旅行に行くからには健康の問題に煩わされることなく楽しく過ごしたいものである。海外に向かう人々の質も以前とは異なってきている。まず高齢者の海外渡航が増えている。高齢者であるということは、基礎疾患をもっている可能性が高い。そのような方々が海外に行くわけである。近年は医療も高度化し、免疫抑制薬や生物製剤を用いられる影響で、免疫不全を抱えた患者が増えている。このような患者のすべてが海外旅行を忌避するわけではない。実際には免疫不全を抱える患者も多く海外に渡航している。よって、単に海外渡航者が増えているばかりでなく、そのなかには感染などの健康リスクの高い患者も一定数含まれている。

これらの患者の健康管理にあたるのは誰か。すでに健康の問題を抱える患者にとって、最も相談しやすい相手は、遠くの施設にいる旅行医学を専門とする医師ではなく、かかりつけの医師であろう。つまり普段から患者の高血圧や、糖尿病や、リウマチといった疾患を診ている医師こそがこのリスク管理を依頼される可能性があるわけだ。「専門外」といって避けては通れない時代になってきている。

海外帰国者の発熱に遭遇したことのある方は多いはずである。思い出していただきたい。自分はそのときに自信をもって対応ができただろうか。自信はなくても、一定の指針をもって、系統的な対応ができたであろうか。これだけ海外渡航者が多いなかで、体調不良となった場合にすべての患者が帰国後にトラベル

クリニックを受診するわけではない。受診しやすい近隣の医療機関を訪れる可能性が高い。よって、感染症や旅行医学を専門としない医師でも、海外帰国者の健康の問題には対処しなければならないのである。

このように、医療者の側では、海外渡航前後の患者の健康リスクを適切に扱う必要に迫られている。感染症を専門とする医師の外来ばかりでなく、一般医の外来にも患者が海外旅行に関係する健康相談目的で受診することも十分にありうるのだ。備えが必要であることは間違いない。

このように、本邦では旅行医学の実践に関する知識のニーズが高まっている。しかしこれまで、本邦で旅行医学を実践することは容易ではなかった。その最大の理由は情報の不足である。なぜならば、従来は英文の情報に頼るしかなく、和書でこの期待に添えるものはなかったからである。旅行医学に関する情報の収集は手軽になおかつ系統的行える環境ではなかったのだ。

岩田先生、土井先生の監訳されたマニュアル(『トラベル・アンド・トロピカル・メディスン・マニュアル』)は、本邦で旅行医学を志す医療者の期待に応えるものである。本書の特徴は、記述が実際的なことである。例えば、蚊の忌避薬一つとっても具体的な商品名が挙げてある。このような情報は、実際に診療を行ってみるとわかるが、なかなか簡単に系統的に得られるものではない。実際に旅行前の患者と旅行にかかるリスクの検討・指導を行う場合には、かなり系統的な情報の提示が必要である。この系統的な情報の部分部分を、個々の医療者がその都度検索してまとめていくことは、大変に骨の折れる作業である。これがまた一般医の旅行医学への敷居を高くしている。本書は、その敷居を取り払ってくれる。本邦最初の書であると言える。